

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-作-1 20-作-2	課題名	1. 良質米生産対策及び稲作の低コスト化 ・温暖化に対応した水稲「朝日、ヒノヒカリ」の良食味栽培技術の確立 ・疎植による水稲の省力軽労栽培技術の確立		
期間	19～21年度	担当部課室	作物研究室、中山間農業研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果(平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	4				4.3	4.4
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	2	4				4.3	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	3	3				4.5	
	・今取り組むべき課題であるか。	2	4				4.3	
有効性	・経済効果は認められるか。		5	1			3.8	3.8
	・県民生活の向上に寄与するか。		6				4.0	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	1	3	2			3.8	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		4	2			3.7	
	・新規性・独創性があるか。		3	3			3.5	
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		6				4.0	4.0
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	1	5				4.2	
	・計画や実施体制は適切か。		4	2			3.7	
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	5				4.2	
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	2	4				4.3	

＜助言・指摘事項等＞

- ・我が国の基幹食料である水稲の品質・食味を維持するために必要な研究課題である。温暖化が予想以上に早く進行しているため、早急に温暖化対策技術の確立が求められており、重要な課題と考えられる。食味を良くするための生育診断法と応急対策について、農業普及指導センターが活用できる技術としての開発を期待する。しかし、食味の解析は3年間の調査では難しいので、継続した取り組みが必要と考えられる。
- ・既存田植機を用いた疎植による労力節減だけでなく、資材や燃費の高騰に対処する技術の開発もぜひ実施して欲しい。
- ・知的財産となるような革新技術の開発を望む。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-作-3	課題名	2. 良質麦増産対策 ・小麦有望品種「ふくほのか」の高品質栽培技術の確立		
期間	19～21年度	担当部課室	作物研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果(平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	4				4.3	4.3
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	2	4				4.3	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	2	4				4.3	
	・今取り組むべき課題であるか。	2	4				4.3	
有効性	・経済効果は認められるか。		5	1			3.8	3.9
	・県民生活の向上に寄与するか。		5	1			3.8	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	3	3				4.5	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		4	2			3.7	
	・新規性・独創性があるか。		3	3			3.5	
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		6				4.0	4.0
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		6				4.0	
	・計画や実施体制は適切か。		6				4.0	
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		5	1			3.8	
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	3	3				4.5	

**<助言・指摘事項等>**

- ・今後の世界の食料の需給見込みから、国産農産物の自給率向上は重要な施策である。早熟多収性の新品種「ふくほのか」の栽培技術の確立は、小麦の産地化に貢献でき、ひいては自給率向上に結び付く重要な課題である。また、品目横断対策とも連動しており、政策的に見ても重要である。
- ・タンパク質適正化に関する栽培技術は、早期に開発されることを期待する。課題解決に当たっては、試験場の資源や費用対効果を鑑みて、共同研究も一考の価値があると考えます。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-作-4 20-作-5 20-作-6	課題名	3. 有望作物の選定と栽培法の確立 ・白大豆の省力・高品質・安定生産技術の確立 ・コンバイン収穫に対応した黒大豆の高品質・省力栽培技術の確立 ・機能性を重視した有色大豆の選抜と育成		
期間	19～23年度	担当部課室	作物研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	4				4.3
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。		6				4.0
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	2	4				4.3
	・今取り組むべき課題であるか。	1	5				4.2
有効性	・経済効果は認められるか。		6				4.0
	・県民生活の向上に寄与するか。		6				4.0
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	1	5				4.2
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		5	1			3.8
	・新規性・独創性があるか。		3	3			3.5
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。	1	5				4.2
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		6				4.0
	・計画や実施体制は適切か。		5	1			3.8
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		5	1			3.8
総合評価	5 : 優先的に実施することが適当 4 : 実施することが適当 3 : 計画等を改善して実施することが適当 2 : 実施の必要性が低い。 1 : 計画等を見直して再評価を受けることが必要	2	4				4.3

**<助言・指摘事項等>**

- ・黒大豆の機械化による省力栽培や、白大豆の省力・高品質・安定生産技術の開発は、省エネ化による環境負荷軽減に通じ、また、農地の有効利用、産地化、自給率向上にも貢献する重要な取り組みであり、実用化技術としての成果が期待できる。
- ・種子の国外や他県への流出は、近年、知的財産保護の面から問題となっているので、共同研究等により品種識別法を開発してはどうか。
- ・イネ、麦類、大豆を組み込んだ輪作体系の提示をお願いしたい。
- ・黒大豆の機械収穫については、収穫機を開発するメーカーとの協力体制が必要ではないか。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-果-1 20-果-2	課題名	4. モモの新栽培技術 ・「おかやま夢白桃」のブランド化のための安定生産技術の確立 ・「ロイヤル」モモのマルドリ栽培法の開発		
期間	16～23年度	担当部課室	果樹研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	5	1				4.8	4.8
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	5	1				4.8	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	5	1				4.8	
	・今取り組むべき課題であるか。	5	1				4.8	
有効性	・経済効果は認められるか。	3	3				4.5	4.4
	・県民生活の向上に寄与するか。	3	3				4.5	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	4	2				4.7	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		6				4.0	
	・新規性・独創性があるか。	2	4				4.3	
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。	2	4				4.3	4.3
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	4				4.3	
	・計画や実施体制は適切か。	1	5				4.2	
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	5				4.2	
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	6					5.0	

**<助言・指摘事項等>**

- ・岡山ブランドの形成に重要な位置を占める「おかやま夢白桃」の安定生産技術を確立し、スピーディーに産地に普及しブランド化を図ることは優先して取り組む重要課題である。また、果樹栽培にはコストや労力が多くかかることから、省エネ、省力、省コスト化が可能な品種の育成や新技術の開発が求められる。これらの観点から、研究課題の進展を期待したい。
- ・新しい栽培技術である「マルドリ栽培」は、マルチすることだけで糖度が向上するなら普及性は大きいと思われる。「マルドリ栽培」したモモを品質面からもアピールすることや、安価にドリップ灌水する方法も研究して欲しい。また、他の白桃品種への応用も可能ではないか。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-果-3 20-果-4 20-果-5	課題名	5. ブドウの安定生産と品質向上 ・省エネルギー対策試験（加温マスカットにおける省エネ技術組立試験） ・マスカットの無核化技術の確立 ・ブドウ新栽培技術の開発		
期間	16～21年度	担当部課室	果樹研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果(平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	3	3				4.5	4.5
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	2	4				4.3	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	4	2				4.7	
	・今取り組むべき課題であるか。	3	3				4.5	
有効性	・経済効果は認められるか。	2	4				4.3	4.3
	・県民生活の向上に寄与するか。	2	3	1			4.2	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	2	4				4.3	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。	1	5				4.2	
	・新規性・独創性があるか。	3	3				4.5	
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		6				4.0	4.3
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	3	3				4.5	
	・計画や実施体制は適切か。	2	4				4.3	
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	2	4				4.3	
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	3	3				4.5	

**<助言・指摘事項等>**

- ・岡山ブランドによって差別化を図ることは極めて意義がある。また、原油価格高騰の折から、省エネ、省資材化のための技術開発は、今日の重要課題であり、早急な技術確立が望まれる。また、革新的な省力化技術が開発できれば、農業の担い手対策にも貢献できる。
- ・マスカット生産の省力化や消費者のライフスタイルの変化に対応した無核化技術は重要な技術開発である。これら開発中の技術は実証段階にあると思われるので、普及に向けた取り組みを強化して欲しい。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-野-1 20-野-2	課題名	6. 主要野菜の低コスト・省力・軽労働生産技術 ・省エネルギー対策試験（空気膜フィルムによる促成ナス安定生産技術の確立） ・ナス栽培におけるミツバチの長期利用技術の開発		
期間	19～22年度	担当部課室	野菜・花研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果(平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	4				4.3	4.0
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。		5	1			3.8	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	1	2	3			3.7	
	・今取り組むべき課題であるか。	1	5				4.2	
有効性	・経済効果は認められるか。	1	4	1			4.0	3.9
	・県民生活の向上に寄与するか。		4	2			3.7	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	1	4	1			4.0	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		6				4.0	
効率性 ・ 妥当性	・新規性・独創性があるか。	1	3	2			3.8	3.9
	・費用対効果は適切か。	1	3	2			3.8	
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	1	4	1			4.0	
	・計画や実施体制は適切か。		5	1			3.8	
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	1	4	1			4.0	

**<助言・指摘事項等>**

- ・ナス栽培の省エネ化、省力化に向けた取組みであり、評価できる。促成ナスの省エネ化のため空気膜フィルムを利用するというのは発想がおもしろい。しかし、資材自体の価格高騰や耐久性、異常気象による耐風性が問題になるので、これら点を考慮した検討も必要である。
- ・セイヨウミツバチを利用した着果処理の省力化は発想がよく、大変興味深い。ぜひ技術を確立して欲しい。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-野-3 20-野-4	課題名	7. 野菜の新栽培法並びに周年生産技術 ・葉付き長ゴボウの冬期（1～2月）出荷技術の確立 ・イチゴ冷蔵庫内連続低温育苗法の開発による低コスト超促成作型の確立			
期間	19～22年度	担当部課室	野菜・花研究室		評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	1	4	1			4.0
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。		5	1			3.8
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	1	4	1			4.0
	・今取り組むべき課題であるか。	1	4	1			4.0
有効性	・経済効果は認められるか。		6				4.0
	・県民生活の向上に寄与するか。		5	1			3.8
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	1	4	1			4.0
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		5	1			3.8
	・新規性・独創性があるか。	1	5				4.2
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		6				4.0
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		6				4.0
	・計画や実施体制は適切か。		3	3			3.5
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		4	2			3.7
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	1	4	1			4.0

**<助言・指摘事項等>**

- ・ゴボウの冬期出荷やイチゴの超促成作型の開発はマーケティング面からみると有効な技術開発である。しかし、葉柄付き長ゴボウの冬出荷は、現地からの要望があれば別だが、県が実施する根拠は不十分との意見も一部にあった。
- ・イチゴの低コスト超促成作型の開発での「冷蔵庫内苗低温処理技術」は研究価値がある。技術的に特に困難がなければ、民間との共同研究等はできないか。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-花-1 20-花-2	課題名	8. 切り花花きの栽培技術 ・スイートピーの日持ち性向上技術の開発 ・ブランド化を目指した地域特産花きの品種選抜と栽培法の改善		
期間	19～22年度	担当部課室	野菜・花研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。		6				4.0	3.8
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。		6				4.0	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。		3	3			3.5	
	・今取り組むべき課題であるか。		5	1			3.8	
有効性	・経済効果は認められるか。		6				4.0	3.9
	・県民生活の向上に寄与するか。		6				4.0	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。		6				4.0	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		4	2			3.7	
	・新規性・独創性があるか。		4	2			3.7	
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		5	1			3.8	3.7
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		5	1			3.8	
	・計画や実施体制は適切か。		3	3			3.5	
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		3	3			3.5	
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要		5	1			3.8	

**<助言・指摘事項等>**

- ・スイートピーの日持ち性向上技術のマニュアル化は価値があると思われる。スイートピーの日持ち保証システムが確立されることを期待する。
- ・スイートピーの日持ち性向上技術や染色技術等は、県の試験研究機関だけでなく民間との共同研究等での対応はできないか。
- ・クレマチスの省力仕立て法、ブルーレースフラワーの優良品種選抜は現場からの強い要望があり、県の特産品目でもあるので、栽培法を確立すべきである。マーケティングの側面からみて、有効な技術開発であると評価できる。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入



**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-化-1 20-化-2 20-化-3	課題名	<b>9. 土壌管理技術</b> ・モモ・ブドウの高品質果実安定生産のための施肥改善対策 ・黒大豆の高品質・安定生産のための土壌・施肥管理技術の確立 ・有機栽培における持続的な土壌管理技術の確立		
期間	19～24年度	担当部課室	化学研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	3	3				4.5
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。		5	1			3.8
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。		6				4.0
	・今取り組むべき課題であるか。	2	3	1			4.2
有効性	・経済効果は認められるか。		5	1			3.8
	・県民生活の向上に寄与するか。		5	1			3.8
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	2	3	1			4.2
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		5	1			3.8
	・新規性・独創性があるか。	1	2	3			3.7
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		5	1			3.8
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		5	1			3.8
	・計画や実施体制は適切か。		6				4.0
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		6				4.0
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	1	5				4.2

**<助言・指摘事項等>**

- ・果樹や黒大豆作りだけでなく、有機栽培のための土壌管理技術も重要と思われる。岡山県の有機農産物生産に関する根幹的技術であり、岡山県の農産物ブランドを堅持するために必要な技術開発である。
- ・基盤となる土壌との関連等、施肥管理技術の確立には困難な側面が少なくない。農家との共同研究等によって、現場での農作物の管理方法、高品質化、各種土壌との関連を明らかにする研究が必要である。
- ・農業資材の高騰が進行するなかで、肥料の地産地消（あるいは地域でのリサイクル）技術の開発も望まれる。畜産排せつ物の処理法（堆肥化だけではなく）によっては、肥料成分のみならず健全育苗への効果も期待できるので、このような課題も含めて取り組んでいただきたい。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入  
**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-経-1 20-経-2	課題名	10. 消費需要に対応した産地再編対策 ・直売所への農産物の安定的出荷システムの策定 ・集落営農の類型化と育成方法の解明		
期間	18～22年度	担当部課室	経営研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果(平均点)	
		5	4	3	2	1		
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	3	1			4.2	4.0
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。		6				3.8	
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	1	3	2			3.8	
	・今取り組むべき課題であるか。	2	3	1			4.2	
有効性	・経済効果は認められるか。		4	2			3.7	3.7
	・県民生活の向上に寄与するか。		4	2			3.7	
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	1	3	2			3.8	
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		4	2			3.7	
	・新規性・独創性があるか。		4	2			3.7	
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		3	3			3.5	3.7
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		5	1			3.8	
	・計画や実施体制は適切か。		4	2			3.7	
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		5	1			3.8	
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	1	5				4.2	

<助言・指摘事項等>

- ・今日的な研究ニーズの高い課題である。農産物直売所がさらにレベルアップするためにはクリアしなければならない重要な経営管理であり、望ましいビジネスモデルを提示していただくことで、直売所が大いに活性化できるものと期待できる。また、集落営農の育成手法の解明は重要と考える。これらはいずれも重要課題であり、早急な対策が望まれる。このため県機関を核にした、生産者（販売者）消費者間での双方向の情報交換システムの構築、これらデータの解析、さらに解析に基づいた対策（政策）の立案が急ぎ求められている。
- ・本課題の進展には、営農者、ブランド力、栽培技術、情報収集・発信等々総合的な取組みが重要であり、農業センターの総合力をぜひ活用願いたい。
- ・直売所での新鮮で安価な農産物の販売は消費者にとっても魅力的である。農産物の出荷と需要を調整する仕組の確立は大切である。営農集落間のネットワーク作りも必要と考える。
- ・研究成果の検証のために、普及指導センターと連携することを期待する。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票

番号	20-中-1 20-中-2 20-中-3	課題名	11. 中山間地対策 ・中山間地域における水田畦畔・法面の省力管理技術の開発 ・四季成り性のイチゴの安定生産技術の確立 ・オリジナルリンドウの連続出荷と新作型の開発		
期間	19～21年度	担当部課室	中山間農業研究室、野菜・花研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	2	4				4.3
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	2	4				4.3
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	2	3	1			4.2
	・今取り組むべき課題であるか。	3	3				4.5
有効性	・経済効果は認められるか。		6				4.0
	・県民生活の向上に寄与するか。		6				4.0
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	2	3	1			4.2
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		4	2			3.7
	・新規性・独創性があるか。		4	2			3.7
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		5	1			3.8
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	1	4	1			4.0
	・計画や実施体制は適切か。		5	1			3.8
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。	1	5				4.2
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	2	4				4.3

<助言・指摘事項等>

- ・夏イチゴの新品種開発と安定供給できる方法を確立することは、製菓業界からの需要も期待でき中山間地域の新たなブランドとして、他県に負けないよう取り組んで欲しい。リンドウは中山間地域での栽培に適した花なので、産地化、ブランド化が期待される。これらのことからイチゴとリンドウの育種は経常的に取り組むべき課題と考える。
- ・水田畦畔・法面の省力管理技術の開発は、既存技術の現場への適用を考慮しながら対処し、人的、経済的な配分を、さらに検討してはどうか。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-果-6	課題名	新1. 秋冬期の温暖化に短期対応できるモモ、ブドウの生産安定化技術の開発			
期間	21～25年度	担当部課室	果樹研究室	評価者	全委員	

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。	3	3				4.5
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。	1	5				4.2
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。	2	4				4.3
	・今取り組むべき課題であるか。	4	2				4.7
有効性	・経済効果は認められるか。	1	5				4.2
	・県民生活の向上に寄与するか。		6				4.0
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。	1	5				4.2
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。	1	4	1			4.0
効率性 ・ 妥当性	・新規性・独創性があるか。	2	3	1			4.2
	・費用対効果は適切か。	1	4	1			4.0
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。	2	3	1			4.2
	・計画や実施体制は適切か。	1	5				4.2
総合評価	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		5	1			3.8
	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要	3	3				4.5

**<助言・指摘事項>**

- ・温暖化による、直接的、間接的被害は年々深刻化しており、早急な対策が求められており近い将来必ず必要となってくる技術開発と考えられる。マスカット、ピオーネ、清水白桃は岡山のブランドであるため、温暖化しても安定供給できる対策を立てておくことは、重要と思われる。温暖化に対応できる優良品種作出までの対策として、緊要な課題である。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

**農業総合センター農業試験場試験研究課題 事前評価票**

番号	20-経-3	課題名	新2. 直売所の物流連携による地域活性化方策の策定			
期間	21～23年度	担当部課室	経営研究室	評価者	全委員	

評価項目	評価の視点	評点(点/人)					評価結果 (平均点)
		5	4	3	2	1	
必要性	・機関の運営方針や政策上重要であるか。		4	2			3.7
	・県民や社会のニーズに適切に対応しているか。		4	2			3.7
	・民間等では対応できず県で実施すべきものか。		2	4			3.3
	・今取り組むべき課題であるか。		4	2			3.7
有効性	・経済効果は認められるか。		4	2			3.7
	・県民生活の向上に寄与するか。		4	2			3.7
	・成果が有効に利用されることが見込まれるか。		3	3			3.5
	・成果の応用や新たな分野への展開が見込まれるか。		3	3			3.5
	・新規性・独創性があるか。	1	2	3			3.7
効率性 ・ 妥当性	・費用対効果は適切か。		3	3			3.5
	・目標設定やその達成可能性は妥当か。		5	1			3.8
	・計画や実施体制は適切か。		4	2			3.7
	・関係機関等との連携を含め研究手法は適切か。		4	2			3.7
総合評価	5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い。 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要		5	1			3.8

**<助言・指摘事項>**

- ・直売所の物流の連携は必要であり、地域、県活性化モデルの試みとしての進展を期待でき、またプロジェクトとしての発想は興味深い。しかし、直売所間の物流を経済的に採算があうベースに乗せながら、具体的に可能な物流システム構築を検討し、これを補強し、また先行課題との違いを明瞭にした方が良い。計画書に記載のように、規模や人的課題等に困難が予想されるので、利潤増となるような仕組みづくり（政策）が重要と考えられる。
- ・直売所間の物流はコスト、人的課題が発生するので、品揃え、消費者の満足度を高めることについて研究する方が、より現実的ではないかと考える。さらに、地域活性化モデルの策定にとどまらず、モデルの検証を重視して欲しい。

評価項目：5 極めて優れている、4 優れている、3 普通、2 改善すべき、1 劣っている  
 総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入